

三菱製紙資料目録(創業～昭和40年)

三菱製紙株式会社管理本部総務部社史編纂室編
 東京 編者 日本経営史研究所製作 1993. 5
 (5)、115p 29.5cm 非売

本目録は三菱製紙の社史『便上一層樓—三菱製紙90年の歩み』の編集・刊行に並行して編纂されたもので、作業は社史の場合と同じく日本経営史研究所が担当して作成された。ちなみに、同社は昭和37年に『六十年史』を、45年には『七十年史』を社史委員会の下に編纂・刊行している。

『七十年史』が刊行された後、ちょうど町村史のブームのように社史編纂事業も隆盛をみ、この間日本経営史研究所や企業史料協議会の活動も始まった。企業史料協議会が講習会等を開催してビジネス・アーキビストの養成にも努めていることを筆者は不勉強で最近まで知らなかった。本書の紹介はそういう現場の方にさせていただくのが最良と思われるが、会社史や営業報告書を集めたり、利用したりしている者の視野から藪駈みの言を呈してみらる。

三菱製紙は、三井系の王子製紙と共に日本における近代製紙事業の草分け的存在で、明治5年頃神戸に設立された英国法人の会社が前身である。その後岩崎弥之助の出資から買収を経て明治31年神戸製紙所となり、(この時をもって創立としている)工場も高砂に移転された。現在製紙会社上位8社の内に入る三菱系の会社である。

本目録には、前身のKobe Paper Millから昭和40年代まで本社・工場を含む全社の経営・労務・生産関係の保有文書が掲載されている。編成はまず大きく本社関係と工場・営業所別、前身会社・関連会社別に分け、その下は年代順(文書綴の場合は対象期間の始期)配列の部とこれらを一括した全事業所の年代順配列の部からなる。本社関係には別に経営政策・労務・研究・設備・営業・経理等の6

分類の主題区分—年代順のものも作成されている。「労務管理」には明治年代からの職工勤怠簿や労働争議の記録も挙げられてる。巻末には所謂文書管理規定に相当する「文書保有状況」「保有期間表」が添付されている。文書の状況については、『六十年史』の「後記」に述べられている「資料を集めて感じたことは、その量と質、および保存の上に、当社各時代の姿が如実に現れており、例えば創業時代とか、台湾・上海・中川等各工場の新規事業や建設時代に関する記録は文書・写真とも豊富で、よく整理されていて、会社の関心が一つの問題に集中されていることを示しているが、無事泰平のとき、もしくは沈滞気味のころの資料は何となく活気がなく、また終戦後の混乱時代は総体的纏まりを欠いている」云々で替えておく。

これまで、会社史は市町村史に比べられるほど数多く刊行されてきている。しかしながら前者が収集史料目録等を刊行しているのに対し後者の場合原史料については元より参考資料等についても言及されていることは少ないように見うけられる。以前のことになるが、筆者が営業報告書その他の資料の調査・収集で企業を訪問した際、余程顔のきく紹介がない限り書庫の立ち入りは勿論シャットアウト、資料の撮影許可は良い方で、限定された資料をそれもコピーで郵送されたケースもあった。外部の人間には言うなれば手の内は見せないのが当たり前であったと思う。企業史研究は経済・経営史研究には元より近代日本史研究上にも欠くことのできない一要素である。一点といえど霞の向こうにあったものの存在が明らかになることは喜ばしいことである。まして、工場の資料まで公表するこの目録は画期的な製作物であると言えよう。今後各分野の企業の史料がどんどん公表されてくることを期待したい。

高橋 益代・一橋大学経済研究所